

技術士包装物流会 月例研究会 講演要旨

日時	平成 29 年 8 月 7 日(月) ----- 16:00~17:30
場所	日本技術士会会議室
	荳手第二ビル5階((フキデダイニビル)東京:田中山ビルの隣)
演題	「持続可能な開発アジェンダ 2030-SDGs」～企業はどう対応すべきか～
講師	サステナビリティ日本フォーラム 代表理事
	後藤 敏彦 氏

内容	
----	--


1. 概要

2015 年に国連は食持続可能な開発アジェンダ 2030(SDGs)を採択した。先進国・途上国を問わずすべての国、企業、市民が 2016 年から 2030 年までに取り組むべき 17 のゴールと 169 ターゲットが定められている。全世界の経済社会に大きな影響を持つものであり、取組はビジネス機会にもつながるものも多い。包装にも大きな影響をもたらすものであり、その意義等を共に考えたいと話され、関連して ESG 投資の話もされた。

2. CSR 相関図:SDGs関連の事項を「概念・軸・指標」と分類されて相関図で理解しやすく説明された。

CSR相関図

・目的 ・方針 ・戦略 ・概念	・ CSR (守りのCSR プラス 攻めのCSR⇒CSVs) ・ Sustainability (・SDGs 17 Goals) (・コーポレートガバナンス・コード 5章) (・ステewardシップ・コード7章)	・ 企業の社会的責任 (信頼度) ・(社会・企業の) 持続可能性
の 軸	・ Triple Bottom line ・ ESG	・ 経済・環境・社会 ・ 環境・社会・ガバナンス
の 指標	・ISO26000 ・GRI Guideline (Standards) ・SDGs 169 Targets (・コーポレートガバナンス・コード 73項目) (・ステewardシップコード21指針)	・社会的責任の手引き ・CSR報告ガイドライン ・持続可能な開発のための 2030アジェンダ (この3つの対比表あり)

 サステナビリティ日本フォーラム

3
後藤敏彦の解釈(作成)

- ・個々の対応も必要であるが、トータルとしての Sustainability の重要性を述べられた。
- ・「SDGs」と「パリ協定」の 2 つが今後の活動に大きく影響する。「脱 C」を達成すべく、有限の資源の中での発展を図らなければならない。国内外の具体的な事例を挙げて説明された。

3. 文明のベクトルが変わった。

2015 文明のベクトルが変わった

- ◆ 2015 世界での2つの出来事
 - ◆ 9月 国連総会 持続可能な開発のためのアジェンダ2030(SDGs)
 - ◆ 12月 気候変動枠組条約 CoP21 パリ協定
- ◆ 2015 日本での2つの出来事
 - ◆ 9月 年金基金(GPIF) 国連責任投資原則署名
 - ◆ 10月 トヨタ 環境チャレンジ2050
- ◆ ベクトルの変化 = パラダイム・チェンジ

近代(Modern)のベクトル「進歩(成長)」「無限→錯覚」⇒
Post-modernのベクトル「持続可能な発展」(有限→現実)

サステナビリティ日本フォーラム

5

パラダイム・チェンジ

- ◆ 産業革命以来の大工業文明
化石燃料文明
気候変動対策→ **Low Carbonization**
「低」炭素
- ◆ パリ協定後の世界
脱化石燃料→ **De-Carbonization**
「脱」炭素

経済・社会システムの大変換

サステナビリティ日本フォーラム

6

2030年までに確実に起こることを事例を挙げて説明された。

2030年までに確実に起きること

- ① 少子高齢化
2030年1億116万人、高齢化率40%
多分、75歳まで働かないと社会がもたない。
- ② パリ協定 5年ごとの見直し
2023、2028、2033、
- ③ IoT, AI, Robotics の進展
自動運転？、汎用AI 2030？、Basic income？
IA, Intelligence Amplifier ○
- ④ ESG投資のメインストリーム化

サステナビリティ日本フォーラム

7

確定している産業の状況

自動車

- ◆ 2018年 米カリフォルニアZEV規制開始(全米10州)
- ◆ 2018年 中国新エネ車製造義務化
- ◆ 2030年 インド 化石燃料車販売禁止
- ◆ 2040年 フランス 同上
- ◆ 2040年 イギリス 同上

物流

- ◆ 2025年 日本レジ無人化 ICタグ1千億個

サステナビリティ日本フォーラム

9

3. INNOVATION とは「新しいビジネスモデルの創造」である。正しい理解が必要である。

- イノベーション ≠ 技術革新
- 技術革新 = Technological innovation
- イノベーション = 創造的破壊
- パラダイム・チェンジに対するイノベーション
 - ◇ = 新しいビジネスモデルの創造

4. 参考資料:①SDG コンパス、②SDG 産業別手引き、③pwcの Navigating the SDGs を挙げられた。

5. ESG 投資のメインストリーム:企業の活動・株式にとって重要な動きである。「コーポレートガバナンス」報告書・東京証券取引所に提出。ESG は環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス

ス (Governance)

- (1) 責任投資原則 (PRI: Principles for Responsible Investment)
- (2) **2006 年** 当時の国際連合事務総長であるコフィー・アナンが金融業界に対して提唱したイニシアティブである。
- (3) 機関投資家の意思決定プロセスに ESG 課題 (環境、社会、ガバナンス) を受託者責任の範囲内で反映させるべきとした世界共通のガイドライン的な性格を持つ。
- (4) 国連環境計画 (UNEP) 並びに国連グローバル・コンパクトが推進する。
- (5) **責任投資原則は 6 つ原則からなり、35 の行動が示されている。**

1. 私たちは投資分析と意志決定のプロセスに **ESG の課題**を組み込みます。
2. 私たちは活動的な(株式)所有者になり、(株式の)所有方針と(株式の)所有慣習に **ESG 問題**を組み入れます。
3. 私たちは、投資対象の主体に対して **ESG の課題**について適切な開示を求めます。
4. 私たちは、資産運用業界において本原則が受け入れられ、実行に移されるように働きかけを行います。
5. 私たちは、本原則を実行する際の効果を高めるために、協働します。
6. 私たちは、本原則の実行に関する活動状況や進捗状況に関して報告します。

(6) **提言の主たる特徴**

- すべての組織が採用可能である。
- 財務報告に含まれる。
- 財務へのインパクトについて、意思決定に有用な、将来志向の情報を要請するよう設計されている。
- **低炭素経済への移行に関連してリスクと機会に強く焦点を当てる。**

気候関連のリスク

- ◆ 低炭素経済への移行に関連したリスク (Transition Risks)
 - 政策・法的リスク
 - テクノロジーリスク
 - 物質(資源)リスク(バリューチェーン・リスク)
 - 評判リスク
- ◆ 気候変動の物理的インパクトに関連したリスク (Physical Risks)
 - 突発的リスク
 - 慢性的リスク

 サステナビリティ日本フォーラム

36

 サステナビリティ日本フォーラム

気候関連の機会

- ◆ 資源効率性
- ◆ エネルギー源
- ◆ 製品・サービス
- ◆ 市場
- ◆ レジリエンス

37

低炭素経済への移行について企業の理解と実行の重要性を述べられ、日本企業が通常対応する必達目標ではなく、「中長期目標で何をやっていくか、チャレンジとゴールを目指して機会を探し、この技術で何を作る方向に転換するか」が大切と話された。

参考: 年金積立金管理運用独立行政法人 <http://www.gpif.go.jp/operation/esg.html>

以上: 文責 研究会担当、住本